様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１７６３８

研究課題名（和文）地域保健活動はどのように住民の健康に寄与したのか？－島根モデルの歴史的変遷を例に

研究課題名（英文）How have community health activities influenced the health of citizens? :in the case of community health activities in Shimane

研究代表者
福田　茉莉（Fukuda, Mari）

岡山大学・医歯薬学域・助教

研究者番号：７０７０６６６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，過疎地域における地域保健活動モデルを検討するために，これまで島根県で実施されてきた脳血管疾患予防活動の活動変遷過程を明らかにすることであった。その結果，島根県の公衆衛生活動の歴史的変遷は，大別すると３つの時期に区別できた。①脳卒中予防特別対策事業を中心とした時期(1969-1978)，②重点地区活動として，地区組織の形成と健康づくりを並行して実施した時期(1979-1993)，③地域保健法後に地域住民や互助組織による公衆衛生活動が開始された時期(1994-)である。島根県の公衆衛生活動の特徴は，市町村－保健所連携による活動実践，保健師養成の重視などがあった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，行政資料や記録，論文を用いた文献調査と当時の活動に携わった関係者へのインタビュー調査とを実施した（ただしCOVID-19流行下における高齢者のインタビュー調査は中止した）。島根県は脳血管疾患の死亡率，発症率は全国でも高値であり，さらに過疎化が進み，人口減少とともに，医療，社会資源の維持，確保が困難になっているため，地域での地域保健活動がより重要となっている。戦中，戦後，現在にわたる地域保健活動の主体は，保健師と住民による健康を軸としたまちづくりにあり，これらの取り組みは戦中より実施された社会保健婦養成と関わっていた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to examine the model of community health activities in depopulated areas, and to clarify the process of activity changes in stroke prevention activities that have been implemented in Shimane Prefecture. As a result, the historical evolution of public health activities in Shimane Prefecture could be divided into three main periods: ① a period centered on special stroke prevention measures (1969-1978), ② a period during which community organizations were formed and health promotion was implemented concurrently as key area activities (1979-1993), and ③ a period after the enactment of the Community Health Act when public health activities were initiated by local residents and mutual aid organizations (1994-). Characteristics of public health activities in Shimane included collaborative activities between municipalities and public health centers, as well as a focus on training of public health nurses.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：地域保健　保健師教育　脳血管疾患

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

地域包括ケアシステムは，地域で①住まい，②医療，③介護，④生活支援，⑤疾病，介護予防を一体的に提供し，住民が住み慣れた地域で，生活し続けることを目指したサービス提供体制のことである。しかし，無医地区を抱える過疎地域では，医療資源が慢性的に不足しており，医療，介護施設への物理的距離を鑑みても，日常生活圏(中学校区)内でのシステム構築は不可能である。よって，実現可能な対応策は，疾病(介護)予防を基盤とした実践が主となる。特に健常な高齢者に対する市町村―保健所―住民連携に基づく活動が要請される。

本研究の対象地域である島根県は離島や中山間地域を有し，県面積の 8 割以上が条件不利地域である。多数の無医・準無医地区を抱えており(計 42 か所)，全国の無医地区数の推移に逆行して増加傾向にある。戦時中から社会保健婦を積極的に養成してきた地域であり，保健師は島根県内の地域保健活動の中核的存在であった。戦後，県内保健師が中核を担った代表的な事業は，「脳卒中予防特別対策事業(1969(昭 44)年)」と「重点地区活動(1979(昭 53)年)」である。前者は，国家事業として開始されたものが，その 5 年後(1977(昭 49)年)には，県独自の「新脳卒中予防特別対策事業」に発展したものである。後者は地区単位で実施された地域ぐるみの健康づくり活動である。

２．研究の目的

本研究の目的は，これまでの島根県内の地域保健活動の変遷を明らかにすることであった。とりわけ，島根県の健康課題である脳血管疾患予防に関する地域保健活動について，郷土資料や保健統計，関係者の記録等を用いた文献調査を実施し，どのような実践が行われていたのかを検討する。さらに，当時の活動参加者を対象としたインタビュー調査を実施することにより，実践の様相を明らかにする（なお、本研究課題は COVID-19 流行前に計画されたものであり，高齢者に対するインタビュー調査は当初の予定より回数や範囲が少なくなってしまったため，文献調査や方法論に関する研究成果が多くなってしまったことを付記しておく）。

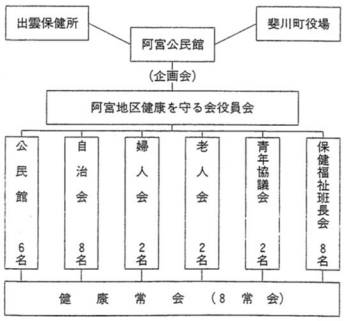
３．研究の方法

島根県の公衆衛生活動は，『脳卒中予防特別対策事業のあゆみ』や『地域がどよめき，芽吹く（重点地区活動報告集）』などの資料が多数存在する。これらは当時の様子を記す貴重な資料である。これらの活動報告には，活動実態(従事者の経験，活動内容)の記述に重点を置かれたものと健康指標の推移（疾患発症率，死亡率など）に重点を置かれたものがある。これらの資料を図書館や関係者から貸与し，時系列に並べなおす文献調査を実施した。また，記録では記載されていない部分は，当時の関係者（保健師や保健所職員等）にインタビュー調査を実施した。

４．研究成果

1938 年に川本保健所開設以来の島根県における地域保健活動は大別して，以下の通りに区分することができた。区分①：国力増強政策としての結核対策・母子保健，区分②：脳卒中に焦点化した疾病予防・リスク管理，区分③健康づくりを中核とする自治組織の確立と意識の向上，区分④：地域住民による互助組織が行う健康づくり。

区分①では社会保健婦養成所の開学や駐在保健師の派遣，GHQ による公衆衛生指導などが生じていた。区分②では，疾病予防に重点化した活動実践であり，国家事業として開始されたものが，その後も県独自の新脳卒中予防特別対策事業として発展していた。島根県独自の新脳卒中予防特別対策は，県下３町村で実施され，脳卒中ゼロを目指した取り組みとなった。循環器検診だけでなく，家庭健康管理カードを導入し疾病管理も行っていた。区分③では，移動保健所を固定した重点地区活動が実施された。重点地区活動の実施地区は県下 80 地区に上り，地域住民の健康づくりと地区組織の確立とが並行して実施された。図は重点地区活動を最初に開始したとされる斐川町阿宮地区の融点地区活動の実施体制を示したものである。「自分たちの健康は自分たちで守ろう」をキャッチフレーズに集落単位での健康づくり活動が実施され，県下に展開された。具体的には「健康を守る会」を設置し，保健所・市町村・地域役員が連携して，定例会を開催し，協議する場が設けられた。また，地域行事に健康や疾病予防を盛り込むことで地域住民の健康への意識を高めた。区分④では，地域保健法の制定により市町村―保健所の機能分化の促進，さらに市町村合併等



・健康大会(昭和58年度～)
・健康の歌(昭和58年度)
・健康おどり(昭和59年)
・地区目標(昭和59年度～)
・常会目標(昭和59年度～)
・健康だより(昭和59年度～)
・健康カルタ(昭和61年度)
・健康標語(昭和63年度～)
・10周年記念大会
（平成４年度）

により重点地区活動の形骸化，重点地区活動の継続が困難になった背景がみられた。重点地区活動を担っていた保健師が退職後に地域住民として健康づくり活動を継続する，あるいは互助組織を立ちあげて健康を支援する活動を行うなどがみられた。

島根県の地域活動の変遷にともない，活動主体や活動地域単位も変遷しており，前者は国家事業としての取り組みから，市町村―保健所間連携，そして互助団体や地域住民の参画への活動実践へ，後者はメゾレベル（市町村）からミクロレベル（地区）へとコミュニティ・ベース・アプローチへと変遷していた。また，保健師の活動内容も区分①では結核対策や母子保健を主としていた活動から，区分②では生活習慣病（成人病）への活動割合が増加し，区分③以降では生活習慣病（成人病）対策が活動の半数を占めるように変化していた。本研究における調査対象期間における島根県の脳血管疾患死亡数の推移を図に示す。島根県内の脳血管疾患死亡率（人口 10 万人当たり）の推移も 256.3（1965 年：区分①）から約 10 年間は横ばい傾向にあったものの，231.8（1979 年：区分②）以降，160.4（1985 年：区分③），143.8（1989 年：区分③）と減少傾向にあった。しかし，1996 年（区分④）には 160.5 と再び上昇しており，重点地区活動に代表されるコミュニティ・ベース・アプローチが脳血管疾患の死亡や発症に与える影響が大きかったことが示唆された。

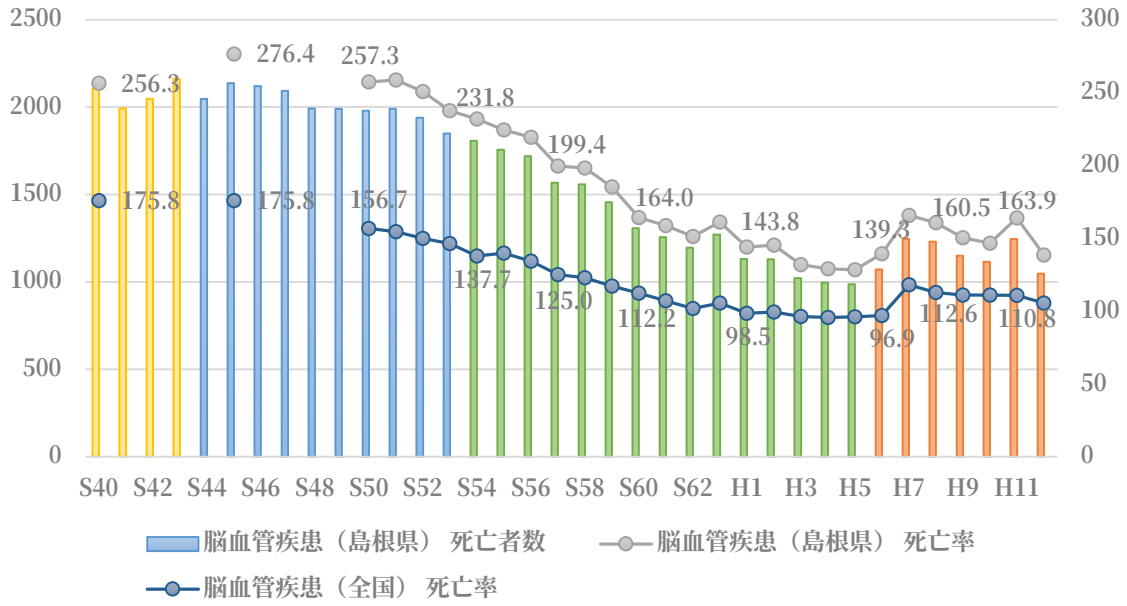


図 脳血管疾患死亡者数と死亡率（島根県衛生統計書より作成）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Tanabe,R Hisamatsu,T Fukuda,M Tsumura,H Tsuchie,R Suzuki,M Sugaya,N Nakamura,K Takahashi, K and Kanda,H	４．巻 63
２．論文標題 The association between problematic internet use and neck pain among Japanese school teachers.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of occupational health	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/1348-9585.12298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Sato,R,Hisamatsu,T,Tsumura,H,Fukuda,M,Taniguchi,K,Takeshita,H,Kanda,H.	４．巻 93
２．論文標題 Relationship between insomnia with alcohol drinking before sleep (Ne-Zake) or in the morning (Mukae-Zake) among Japanese farmers	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Alchol	６．最初と最後の頁 57-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.alcohol.2020.11.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hisamatsu,T, Taniguchi K, Fukuda,M, Kinuta,M, Nakahata,N and Kanda H.	４．巻 31
２．論文標題 Effect of Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Physical Activity in a Rural Area of Japan: The Masuda Study.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Epidemiology	６．最初と最後の頁 237-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2188/jea.JE20200598.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Iwaibara Ayumi、Fukuda Mari、Tsumura Hideki、Kanda Hideyuki	４．巻 24
２．論文標題 At-risk Internet addiction and related factors among junior high school teachers?based on a nationwide cross-sectional study in Japan	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12199-018-0759-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋村康二・福田茉莉・鈴木哲・木村愛子・佐藤利栄・津村秀樹・嘉数直樹・神田秀幸	4．巻 41
2．論文標題 中山間地域在住の家族介護者における介護負担感に関連する要因－ソーシャルサポートに焦点を当てて－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 島根大学医学部紀要	6．最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 久松隆史，福田茉莉，絹田皆子，谷口かおり，中畑典子，神田秀幸
2．発表標題 地域におけるIoT 高血圧管理研究が高血圧有病率・認知率・治療率・管理率に与える影響.
3．学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4．発表年 2022年

1．発表者名 福田茉莉，久松隆史，絹田皆子，中畑典子，谷口かおり，神田秀幸
2．発表標題 高血圧症と社会要因との関連：益田研究から.
3．学会等名 第32回日本疫学会学術総会.
4．発表年 2022年

1．発表者名 土江梨奈，福田茉莉
2．発表標題 外国にルーツを持つ子どもの養育環境における支援～居住支援者へのインタビュー調査～
3．学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4．発表年 2022年

１．発表者名 神田秀幸，福田茉莉，絹田皆子，久松隆史
２．発表標題 コロナ禍でわが国の国民の飲酒量は減ったのか?
３．学会等名 2022年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
４．発表年 2022年

１．発表者名 久松隆史，福田茉莉，絹田皆子，谷口かおり，中畑典子，神田秀幸
２．発表標題 地域における IoT 高血圧管理研究が高血圧有病率・認知率・治療率・管理率へ与える影響.
３．学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Fukuda M, Kanda H
２．発表標題 The risk factors of the Internet Addiction among school personnel in Japan.
３．学会等名 32nd International Congress of Psychology（ICP2020＋）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 神田秀幸，福田茉莉，絹田皆子，久松隆史
２．発表標題 公衆衛生学的観点からみたインターネット嗜癖・ゲーム障害.
３．学会等名 第56回日本アルコール・アディクション医学会学術総会.
４．発表年 2021年

１．発表者名 福田 茉莉，久松 隆史，絹田 皆子，中畑 典子，谷口 かおり，神田 秀幸
２．発表標題 高血圧症と社会要因との関連：益田研究から．
３．学会等名 第32回日本疫学会学術総会．
４．発表年 2021年

１．発表者名 絹田皆子，久松隆史，福田茉莉，谷口かおり，中畑典子，神田秀幸
２．発表標題 2年間の前向き地域研究からみた室温・外気温が家庭血圧に与える影響：益田研究．
３．学会等名 第32回日本疫学会学術総会．
４．発表年 2021年

１．発表者名 久松隆史・福田茉莉・谷口かおり・中畑典子・神田秀幸
２．発表標題 地域住民におけるJSH2019に基づく高血圧の有病率・認知率・治療率・管理率：益田研究
３．学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sato R, Hisamatsu T, Tsumura H, Fukuda M, Esumi Y, Mikajiri K, Tamura S, Kanda H
２．発表標題 The Relationship Between Alcohol Drinking Before Sleeping(Ne-Zake) or in the Morning(Mukae-Zake) and Sleeplessness Among Farmers
３．学会等名 AHA EPILIFESTYLE 2020 Scientific Sessions.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 福田茉莉・渡邉卓也・松島淳・日高友郎・春日秀朗・サトウタツヤ.
２．発表標題 再考，当事者と倫理と研究者：医学分野における質的研究の貢献
３．学会等名 日本質的心理学会第17回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 福田茉莉
２．発表標題 はじめてのTEA
３．学会等名 国際TEA学会（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 當山紀子・高橋謙造・鈴木ミナ子・上原真奈美・福田茉莉・神田秀幸・小林潤・中村安秀
２．発表標題 戦後沖縄における駐在保健師の育成に関する事例研究
３．学会等名 第34回日本国際保健医療学会学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 福田茉莉・中畑典子・宮川健・谷口かおり・久松隆史・神田秀幸
２．発表標題 IoTを活用した長期家庭血圧管理研究の実践報告と課題【益田研究：第1報】
３．学会等名 第78回日本公衆衛生学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中畑典子・福田茉莉・宮川健・谷口かおり・久松隆史・神田秀幸
２．発表標題 IoT家庭血圧測定実施者における食習慣と食物摂取状況の変化【益田研究：第2報】
３．学会等名 第78回日本公衆衛生学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 福田茉莉・神田秀幸
２．発表標題 戦後の公衆衛生活動の歴史的変遷－島根県を例に
３．学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤利栄・津村秀樹・福田茉莉・江角幸夫・三ヶ尻 薫・田村周作・神田秀幸
２．発表標題 農業従事者における精神的健康状態とその関連要因
３．学会等名 第54回日本循環器病予防学会学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計5件

１．著者名 安田裕子、サトウタツヤ（佐藤　達哉）	４．発行年 2022年
２．出版社 誠信書房	５．総ページ数 254
３．書名 ＴＥＡによる対人援助プロセスと分岐の記述	

1．著者名 木戸 彩恵、サトウタツヤ	4．発行年 2023年
2．出版社 ちとせプレス	5．総ページ数 344
3．書名 文化心理学『改訂版』	

1．著者名 安田裕子,サトウタツヤ（佐藤達哉）	4．発行年 2022年
2．出版社 誠信書房	5．総ページ数 254
3．書名 TEAによる対人援助プロセスと分岐の記述：保育・看護・臨床・障害分野の実践的研究	

1．著者名 サトウ タツヤ、春日 秀朗、神崎 真実	4．発行年 2019年
2．出版社 新曜社	5．総ページ数 292
3．書名 質的研究法マッピング	

1．著者名 木戸 彩恵、サトウ タツヤ	4．発行年 2019年
2．出版社 ちとせプレス	5．総ページ数 304
3．書名 文化心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関